香川県糖尿病療養指導士
看護ネットワーク
Qの会
第16号
平成24年
4月22日
広報部

第14回「Qの会」研修会報告

10月9日香川大学において、第14回「Qの会」研修会が開催されました。

今回の研修会は「災害時にそなえた糖尿病看護の在り方」と言うテーマで、午前中は講演、午後よりグループワークを行いました。

講師は、神戸市看護大学　療養生活看護学　准教授池田清子先生をお迎えしました。池田先生は、阪神・淡路大震災で被災された体験とともに、看護学生とともに被災された方への援助活動を行うといった、被災者と援助者の立場になられたという貴重な体験をお持ちでした。この体験をもとに災害看護の基本について研究され、講演では、災害の定義・災害サイクルとフェーズなど今までにない災害基礎看護を学ぶことができました。

午後からのグループワークでは「災害を想定した糖尿病教室を企画しよう」というテーマで話し合いました。先日の東日本大震災の被害が生々しく残る事や、今後、南海・東南海地震が予想されていることもあり、「何が困るか、何が必要か」など各グループで活発な意見交換が行われました。

今回、災害看護の基礎と、糖尿病教室の企画という今できる看護、そして予測される災害への準備を学び考える事の出来た研修会でした。

研修会風景

研修会のアンケート結果

第14回研修会参加者32名のうち25名より回答をいただきました。

参加されたきっかけは「テーマに興味があった」が最も多く「専門性を高めるため」「単位取得のため」となっています。

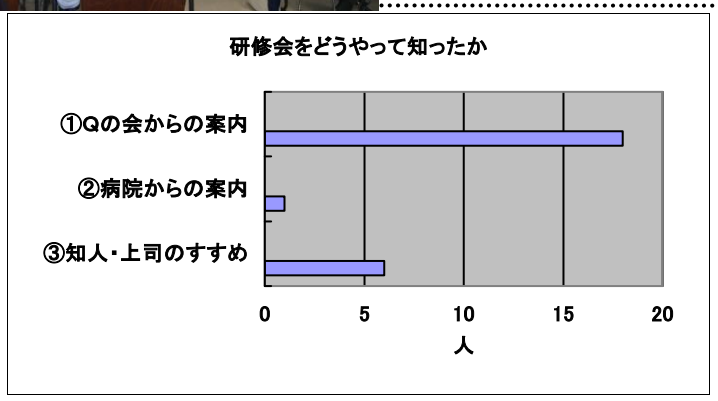
講師・内容については、「おおいに良かった・良かった」と言う意見が100%を占めていました。その理由としては、「災害基礎看護の講義がわかりやすかった」「実体験を踏まえた講義で興味深くわかりやすかった」「自分の災害に関する意識が変わり災害に対する備えをしていこうと思った」「災害看護の研修の機会が少なかったのでとても参考になった」などがありました。

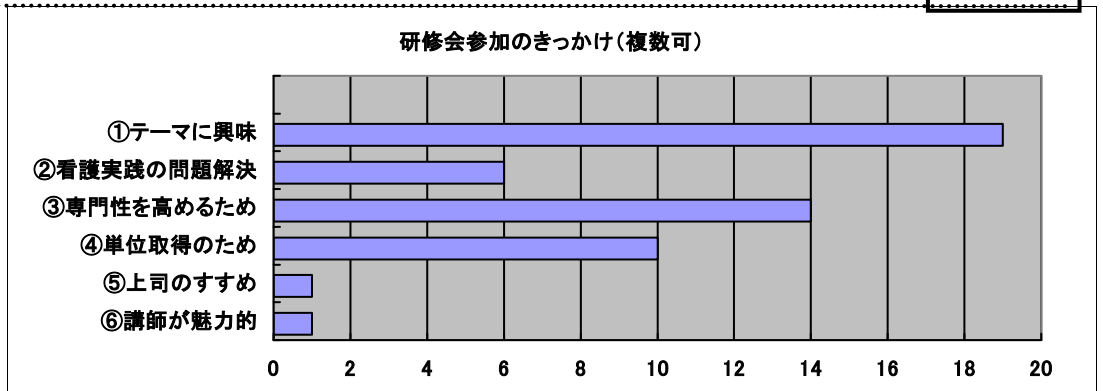
今後の研修についての希望は「合併症の看護」「カーボカウント」「1型糖尿病について」「禁煙について」「糖尿病クリニカルパス」「ヒヤリハット」「デイベート」などがありました。

その他の意見として「研修会を土曜日に開催してほしい」という要望がありました。

アンケート結果は、下のグラフをご参照ください。

アンケートに、ご協力頂きありがとうございました。次回も、また多くの方の参加をお待ちしています。





《会員の声》

第14回「Qの会」研修会報告

高松赤十字病院　岡部満寿子さん

10月9日、香川大学において、第14回「Qの会」研修会が開催されました。今回の研修会は、「災害時にそなえた糖尿病看護のあり方」をテーマに行われました。

東日本大震災から6カ月が過ぎ、この間我々の備えに対する意識が高まったとはいえ、まだ自身の事として考える事が出来ていないのが現状では無いかと思います。糖尿病看護に携わる者として、災害に必要な備えや役割について、改めて考える機会となりました。

午前中は、神戸大学の池田清子先生による「災害看護の基本的知識と要援護者（糖尿病）への看護」の講演でした。その内容は、災害の定義に始まり、災害サイクルと各フェーズの医療と看護から援助者としての自己ケアの重要性、など幅広いものでした。

まず知ったことは、災害に対する最近の考え方について、防災より「減災」としての捉え方になっている事や、要支援者・災害弱者は「要援護者」という呼び方になっている事、「国民保護法」といった法律についてでした。この他、被災地で救護活動する場合や、被災者として避難所生活をする場合など、それぞれの立場ケースによって、医療者としてどのように行動するか、具体的な介入方法について学び、実践に活かせる気づきがたくさんありました。

また、先生の阪神・淡路大震災での被災体験について、被災地で何を見たのか、何を感じたのかを伺うことが出来ました。その厳しい状況を乗り越え、看護学生たちとのボランティア活動を通して被災者の体験を明らかにし、それを教育の中で伝え続けて行くこと、被災者と一緒に時を過ごしていくことの大切さを伝えていただきました。

午後からのグループ演習では、「災害時のセルフケアについて患者さんと共に考える糖尿病教室」を企画し、発表しました。ここでは、災害を体験していない人がリアルに感じられる工夫や、繰り返し設定することが大事であることなどを学びました。患者さん自身が正しい知識を持ち自らが行動できるよう、日ごろの指導においても備えの大切さと共に、災害時を想定した対処方法を伝えて行く必要性を感じました。

この研修を終え、災害が起こった時にまず何をしなければならないか、自分に何が出来るかを考える事が出来たように思います。そして、池田先生がお話しくださった様に、私たちは慢性期看護の中長期的な視点を持ち合わせていることを強みとして、今後さらに災害看護の学習を深めていきたいと思います。

第15回「Qの会」研修会
平成24年度総会のご案内

日時：6月24日（日）10時から15時50分

場所：香川大学医学部付属病院地下カンファレンスルーム（予定）

メインテーマ

『糖尿病と合併症｜糖尿病性腎症をもつ患者への看護｜』（仮）

講師：大阪医科大学附属病院
看護師長
慢性疾患看護専門看護師
添田百合子先生

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

☆第55回日本糖尿病学会年次学術集会・・・第2群4単位
日時…2012年5月17日（木）～19日（土）
場所…パシフィコ横浜
連絡先…FAX　03-5952-3528

☆第6回日本慢性看護学会学術集会・・・第1群2単位
日時…2012年6月30日（土）～7月1日（日）
場所…アクトシティ浜松コングレスセンター（静岡県）
連絡先…FAX　053-436-9-1406

☆第17回日本糖尿病教育・看護学術集会・・・第1群または第2群4単位
日時：2012年9月29日（土）～30日（日）
場所：国立京都国際会館
連絡先…FAx　03-3508-1302

「第30回スプリングキャンプを終えて」

高松赤十字病院　岡田留理

皆さんは、サマーキャンプならず、「スプリングキャンプ」ってご存知ですか？

これは、全国で唯一春にやっている香川の1型小児糖尿病患児のためのキャンプです。

県立中央病院の大西先生、香川小児病院の西庄先生、高松赤十字病院の岡本先生の3人が始められたキャンプで、現在は香川小児病院の横田先生を中心に、今年30周年を迎えることとなりました。

当時キャンパーとして参加していた子供達が、今では立派に成人し親となり、中核スタッフとしてキャンプを引っ張っています。その先輩方をよきモデルとして、次々と若い世代のヤング（OB／OG）が育ち、支える側として大きな力を発揮しています。

30周年になる今年は、五色台少年自然センターにおいて、「せとっ子ジャパン～YSK210（予測血糖）」のテーマで、キャンプが行われました。

初日は、グループ毎にゲームやグループ旗の作成をしました。その傍ら、別室では保護者とヤング・スタッフが集い、子供達の様子や様々な情報交換をしました。初発の子供を持つ保護者の方々は、不安な気持ちを話されたり、他の保護者やヤング達の経験談を聞いて安心したりと有意義な時間を過ごしました。

2日目は、30周年の記念行事として、バスハイクで愛媛の砥部動物園へ遠出をしました。グループ毎に広い園内を自由に散策しながらお弁当を食べ、その後、砥部焼の絵付け体験をしました。さらに、帰り道では初めての外食をバイキングで楽しみました。

3日目は、子供も大人もトリムコースを一緒に回り、夜は各グループのスタンツを楽しみながら、厳かにキャンドルサービスが行われました。

糖尿病教室では、栄養士から食品分類や炭水化物に注目したカーボカウントについての説明がありました。また、ヤングから予測血糖の話と、あらゆる生活場面における対策について、楽しみながら学ぶことができました。

あっという間に4日間が過ぎ、参加者がそれぞれにキャンプの感想や次回への抱負を語り、無事キャンプは終了しました。また1年間のお別れです。疲労困憊のスタッフと対照的に子供達のきらきらした笑顔が、一気に疲れを忘れさせてくれる一時です。

私達スタッフは、「楽しくなければキャンプじゃない」をモットーに、安全で、子供たちがのびのびと楽しく過ごせるための環境作りに徹しています。そして、生活の中から糖尿病との付き合い方を学び、また、1年間キャンパー達が元気で頑張れるように、スタッフ総勢でバックアップしています。その間、久しぶりに顔を合わせたヤング達が友好を深め、様々な職種を超えたスタッフ間でのコミュニケーションに刺激を受け、何より子供達の元気な笑顔や成長から私達スタッフがパワーをもらえる場所です。

こんな素敵なパワースポットに、皆さんも一度参加してみませんか？

◆編集後記：東日本大震災からはや1年。そなえの必要性を感じながら日々が流れています。私達に出来る事を考えながら生活して行きたいと思っています。
広報担当　木村裕美・串田久美

発行所　香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会　香川県木田郡三木町池戸1750の1
香川大学医学部看護学科　野口英子